

■韓国：使用済燃料の貯蔵施設、2016年には満杯

2014年6月19日付の報道によると、国内にある原子力発電所の使用済燃料は、何も策を講じない場合、2年先にセットされた時限爆弾のようになるという。現在、23基の原子力発電所が運転中で、年間に発生する使用済燃料は約700tに達する。1978年に運開した最古の古里原子力発電所では貯蔵施設が2016年までに満杯になるとされる。月城発電所は2017年、韓蔚発電所は2018年、そのほかの発電所も近い将来、満杯になると見られる。政府は2050年までに使用済燃料の恒久処分施設の建設を計画しているが、それまでの間、中間貯蔵施設が必要になる。貿易・産業・資源省は2013年10月、専門家の助言を得て年内に解決策を見出すため、“使用済燃料管理に関する国民契約委員会”を設置した。この委員会では、様々な調査・研究が行われており、最新の取り組みとして、2014年6月17日にソウル市内で初の公聴会が開催された。